

MITSUI SUGAR

CSR Report 2021

CSR報告書

ECHO

Eco Loop

Carbo Science

Health and Happiness

Oishii



三井製糖株式会社

DM三井製糖ホールディングスの企業理念

姿かたちを変えながら
一生に寄り添い、
幸せの時を広げる。

三井製糖の企業理念

三井製糖は、
安心・信頼・天然の食品素材を
誠実に提供し、
豊かなくらしに貢献します。

Contents

- 3 三井製糖グループが目指すべきCSRのかたち“ECHO”
- 5 トップメッセージ
- 7 大日本明治製糖株式会社との経営統合
- 9 三井製糖の重視するESG項目
- 10 三井製糖の考えるサステナビリティフレームワーク
- 11 お客さまのために
- 15 環境のために
- 19 社会のために
- 23 コーポレート・ガバナンス
- 25 三井製糖グループの事業概要
- 27 CSRファクトデータ
- 29 財務情報
- 30 第三者意見

編集方針

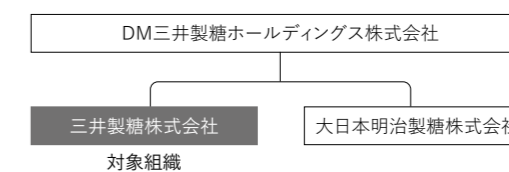
本報告書は、2020年度の主なCSR活動について、全てのステークホルダーの皆さまにお伝えするとともに、活動を更に向上させていくことを目的に発行しています。

本年度もサステナビリティフレームワークに沿って「お客さま」「環境」「社会」という3つのカテゴリに分けて構成しています。また、特集では、三井製糖と経営統合した大日本明治製糖株式会社の取り組みについてもご紹介しています。

三井製糖は、これからも食を支える砂糖のトップブランドのひとつとして、お客さまのため、環境のため、社会のための活動に取り組んでいくとともに、積極的な情報発信を行ってまいります。

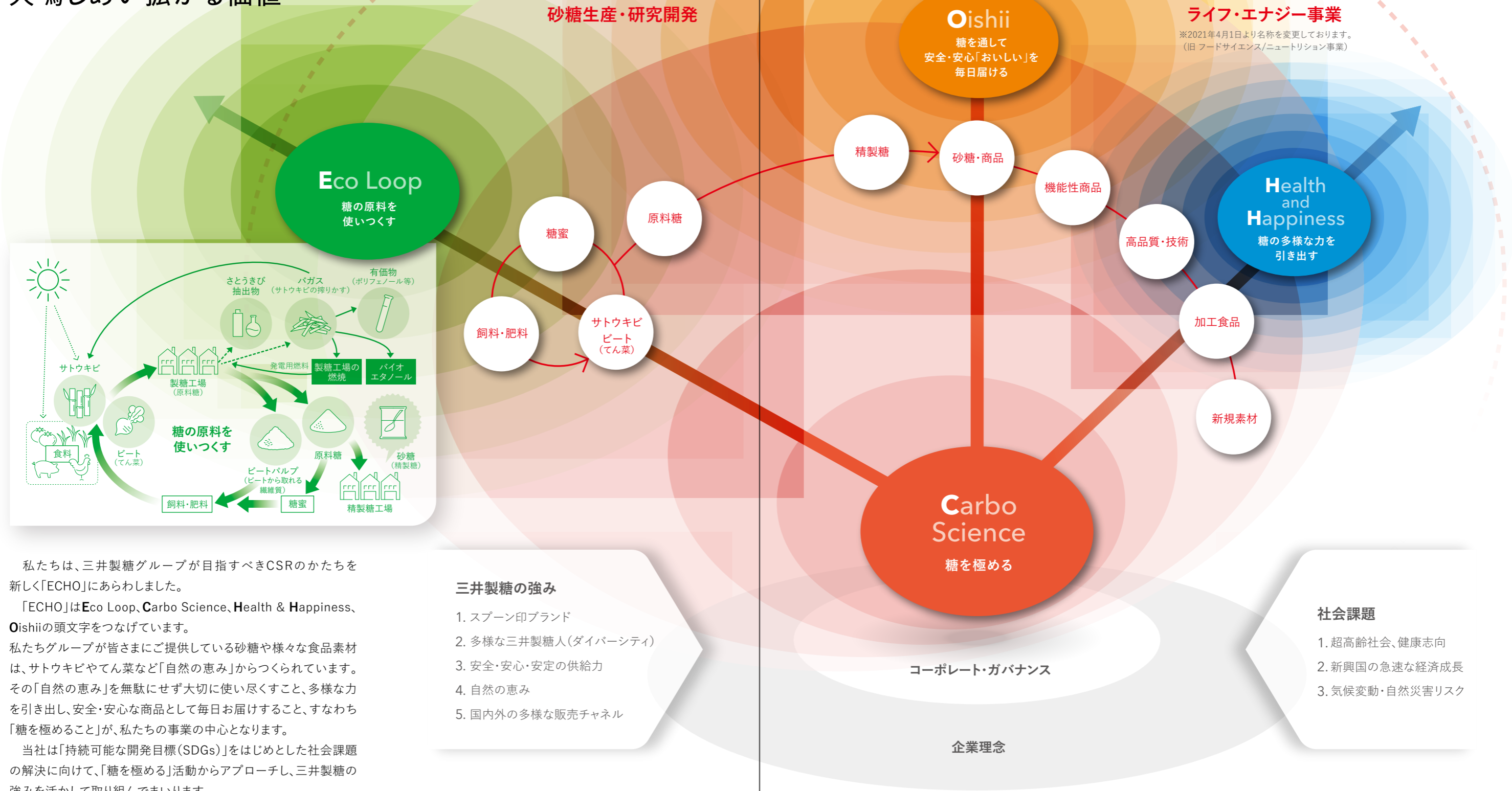
対象期間：2020年4月～2021年3月（一部の取り組みに関して最新のものを掲載）

対象組織：三井製糖株式会社全組織を対象



ECHO

こだまのように反響し、
ステークホルダーの皆さまと
共鳴しあい広がる価値



私たちは、三井製糖グループが目指すべきCSRのかたちを新しく「ECHO」にあらわしました。

「ECHO」はEco Loop、Carbo Science、Health & Happiness、Oishiiの頭文字をつなげています。

私たちグループが皆さまにご提供している砂糖や様々な食品素材は、サトウキビやてん菜など「自然の恵み」からつくられています。その「自然の恵み」を無駄にせず大切に使い尽くすこと、多様な力を引き出し、安全・安心な商品として毎日お届けすること、すなわち「糖を極めること」が、私たちの事業の中心となります。

当社は「持続可能な開発目標(SDGs)」をはじめとした社会課題の解決に向けて、「糖を極める」活動からアプローチし、三井製糖の強みを活かして取り組んでまいります。

三井製糖の強み

1. スプーン印ブランド
2. 多様な三井製糖人(ダイバーシティ)
3. 安全・安心・安定の供給力
4. 自然の恵み
5. 国内外の多様な販売チャネル

社会課題

1. 超高齢社会、健康志向
2. 新興国の急速な経済成長
3. 気候変動・自然災害リスク



代表取締役社長 CEO
森本 卓

Top Message

トップメッセージ

DM三井製糖 ホールディングスの使命

2021年4月1日、三井製糖株式会社と大日本明治製糖株式会社の経営統合が完了し、「DM三井製糖ホールディングス株式会社」は新たなスタートを切りました。DM三井製糖ホールディングスでは、皆さま一人ひとりの豊かな暮らしに貢献するという思いを込めて、「姿かたちを変えながら一生に寄り添い、幸せの時を広げる」を新たな企業理念として制定いたしました。事業活動の目標は、「おいしい」「たのしい」「うれしい」など、人が生きていて幸せを実感するときにそばにいます。事業の源である自然の恵みを様々な姿かたちにして広く社会にお届けし、幸せの時が広がる未来に貢献し続ける企業グループを目指して一歩ずつ挑戦してまいります。

持続可能な社会づくりに 規模を広げて貢献する

DM三井製糖ホールディングスは、国内における砂糖の販売シェア約4割となり、国内生産拠点は北海道から九州、沖縄まで15拠点となりました。一方、海外関係会社では、前年度に中国の中糧糖業遼寧^{ちゅうりょうとうぎょうりょうねい}でスプーン印を表記した製品の生産が開始されました。また、同じく中国の遼寧長和制糖では、三井製糖の技術知見を活かした工場が新設され、今年度より製品の本格生産・販売が開始される予定です。このようにDM三井製糖ホールディングスがサトウキビやてん菜といった「自然の恵み」を土台として、国内・海外の両軸で事業活動を広げ、また成長し続けることで、豊かな食生活へ貢献し、気候変動等の地球環境問題の抑制にも世界規模で寄与できると確信しております。これからも、安全・安心を最優先

し、安定供給に努めるのはもちろんのこと、国内外での強固なバリューチェーンの構築とESGの経営視点を意識し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

これからもすべての人々の パートナーであること

「食」で人々の「LIFE」すなわち「生命、生活、人生」に寄り添いたいという強い思いがあります。これまで三井製糖および、三井製糖の関係会社では、多様なライフスタイルや変わりゆくライフステージに寄り添うべく、砂糖のほかに、砂糖からつくられる天然の甘味料で血糖値上昇抑制効果がある「パラチノース®」や、嚥下サポート食品、栄養補助食品等も提供してまいりました。一方、大日本明治製糖では、砂糖のほかに、独自の酵母分解技術をベースに、天然調味料を主体とする商品の開発、製造、販売を行っています。また雑穀スーパーフードである「キヌア」の販売も行っており、業務用調味料や健康志向食品等の分野へも事業展開してまいりました。今後は、DM三井製糖ホールディングスとして各社が一体となり、より様々な商品とサービスをより広範に展開してまいります。これからもDM三井製糖ホールディングスは事業の持続的成長を通じて、すべての人々のライフパートナーであり続けます。

多様性を尊重し、 社員の一体化を目指す

近年は、新型コロナウイルス感染症拡大や度重なる自然災害の発生等、先行きが不透明な時代となりました。DM三井製糖ホールディングスが、今後のめまぐるしい変化に対応し、イノベーションを生み出し続けるためには、多様な視点を持ち、三井製糖と大日本明治製糖をはじめとした関係会社が隔たりなく一体となる必要があります。そのために性別、年齢、国籍、バックグラウンド等の多様性を尊重した人材を育成していくとともに、企業の垣根を越えた様々な人材交流を行うことで積極的にダイバーシティを推進してまいります。また、企業が永続的に成長する上で欠かせない社員が安全かつ健康的に働けるよう、労働安全衛生に関する仕組みの継続的改善を行い、更なる安全文化の向上に努めます。今後も変わることのない安心をステークホルダーの皆さまにご提供するべく、社員一人ひとりが高い志を持って、挑戦できる職場環境づくりを推進してまいります。



大日本明治製糖株式会社との経営統合

DM三井製糖ホールディングスの企業理念

“姿かたちを変えながら一生に寄り添い、
幸せの時を広げる。”

「おいしい」「たのしい」「うれしい」

人が生きている幸せを実感する時、そばにいること。

DM三井製糖は、事業の源である自然への感謝を忘れずに、

その恵みを様々な姿かたちにして広く社会に届けたい。

幸せの 때가 広がる未来にずっと貢献できるグループ企業へ。

私たちは、一歩ずつ挑戦していきます。

幸せのちからになる

DM三井製糖ホールディングス

DM三井製糖ホールディングスの
企業理念の策定

2021年4月、三井製糖株式会社と大日本明治製糖株式会社は経営統合を行い、新たにDM三井製糖ホールディングス株式会社が発足しました。持株会社体制への移行に伴い、ホールディングス全体の方向性を指し示すべく、企業理念を策定しました。策定にあたって、取締役・監査役へのヒアリングと、未来を担っていく世代の意見を取り入れたいという両社の経営陣の意向により、両社のメンバーによるワークショップで、「これまで」「いま」「これから」といった様々な観点から議論し合い、ひとつひとつの言葉を紡ぎ出していました。

ホールディングス全体での
サステナビリティの取り組み

サトウキビというサステナブルな自然の恵みを事業の根幹に据える当社は、事業全体も一層サステナブルでありたいと考えています。

DM三井製糖ホールディングスは、サステナビリティ委員会を設け、今後、経営戦略と一体となったサステナビリティ方針や、気候変動に対する取り組みを深化していきます。

健康に寄与する商品や環境に配慮した商品の展開はもちろん、リーディングカンパニーとして、北海道から沖縄まであるグループ会社とともに、農業も含めた持続可能な形を模索してまいります。



大日本明治製糖株式会社について



大日本明治製糖株式会社
代表取締役社長 佐藤 裕

大日本明治製糖は、日本初の近代的精製糖事業として1895年に創業した日本精製糖株式会社(後に大日本製糖株式会社と社名変更)と、1906年創業の明治製糖株式会社を源流とする100年以上の歴史を持つ会社です。

次の100年にも幸せをつないでいくため、事業を通じた社会貢献に取り組んでまいりましたが、社会環境の変化のスピードは激しさを増し、国連の2030年までの持続可能な開発目標(SDGs)のゴールまでも、いよいよ残すところ10年を切りました。

2021年度はこれまでの三井製糖と大日本明治製糖の取り組みを融合させ更に大きく進化させることが、大切なステークホルダーの皆さまに対する私たちの責任です。私たちがこのかけがえのない地球にとって、なくてはならない存在となれる様、DM三井製糖ホールディングスとして一丸となりしっかりと取り組んでまいります。

大日本明治製糖株式会社のサステナビリティの取り組み

大日本明治製糖では2018年10月にサステナビリティ推進室を新設し、“持続可能な開発目標(SDGs)”について社員全員で学びながら、出来ることから少しずつ取り組んでまいりました。初めは耳慣れない人も多かった「SDGs」という言葉が今では社内に浸透しています。

活動にあたり大切にしているのは、『食』『環境』『地域』の3つです。「食」に携わる会社としての社会貢献はもちろん、「環境」や「地域」への貢献は業種を超えて必要なものであると考えています。活動の一部をご紹介しますと、「食」の分野では子ども食堂、フードバンクや国連UNHCR協会等への寄付を行い、クリスマスには児童養護施設の子どもたちへクリスマスケーキを贈っています。「環境」の分野では輸送方法の見直しによるCO₂削減やペーパーレス化などの外部環境への取り組みと、ワークライフバランスの充実を目的とした新たな社内制度の制定などの内部環境への取り組みも行っています。また、「地域」の分野では大日本明治製糖と非常に関係の深い沖縄県石垣島での「さとうきび生産体験研修」を実施し、社員が実際に石垣島へ行き農作業を体験することで石垣島やサトウキビ産業への理解を深めています。

2020年度には「2030年に向けた重点目標」を大日本明治製糖ウェブサイト*にて公表し、目標達成に向けて社員一丸となって取り組んでいます。これからも、私たちに出来ること、すべきことを考え、目標に向かって前進していきます。

*大日本明治製糖ウェブサイト <https://www.dmsugar.co.jp/>



三井製糖の重視するESG項目

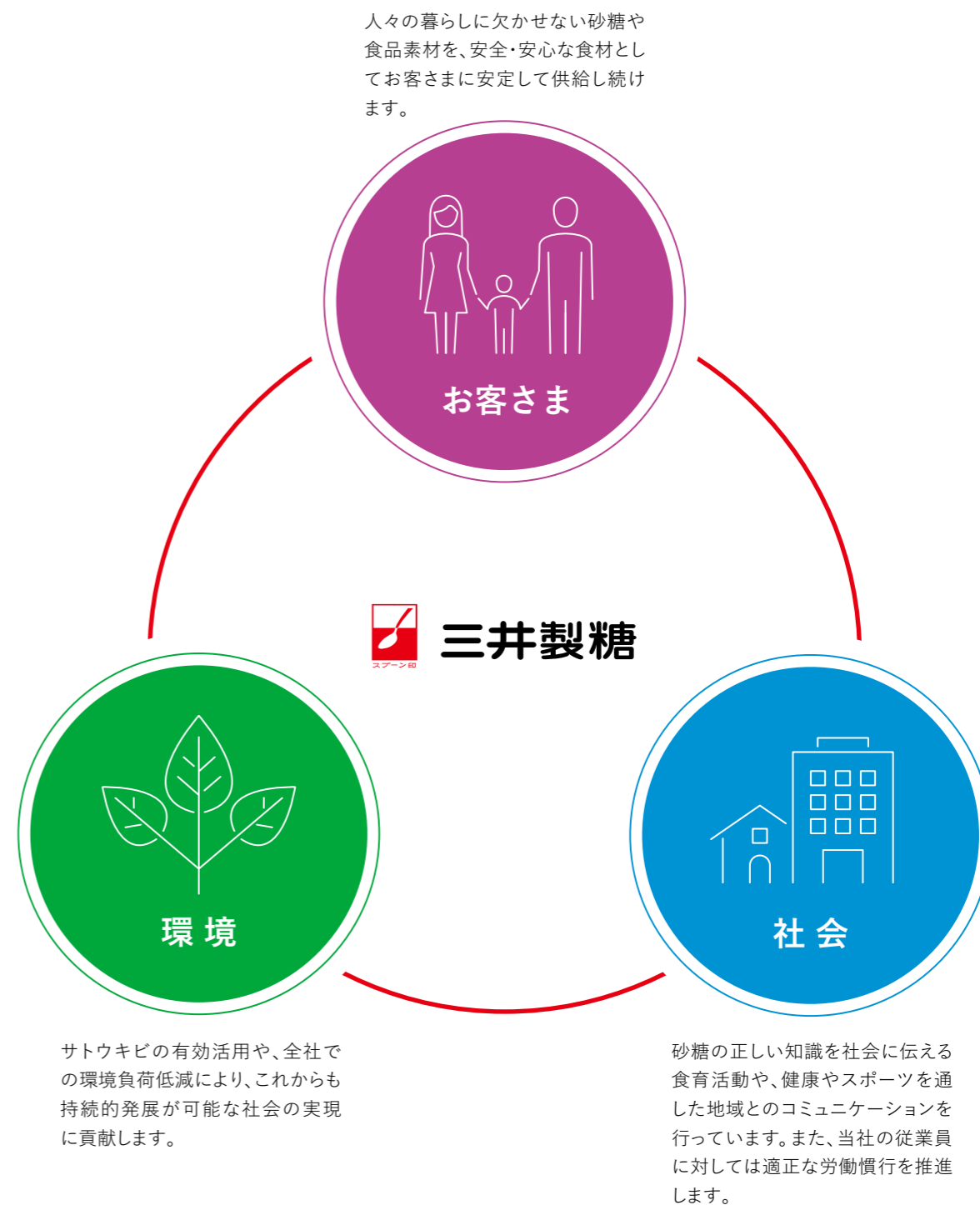
当社グループは、重視するESG項目を以下のようにまとめることにより、SDGsによる持続可能な社会づくりへの貢献に加え、ESG投資にも応えていきます。

より詳しくは…	7つの中核課題	重要課題 (マテリアリティ)	進捗	アクション プラン	当社の事業活動と 関連の深いSDGs
	ESG項目 ▶ Governance				
コーポレート ガバナンス ▶P.23-24	組織統治	コーポレートガバナンス	「三井製糖コーポレートガバナンス・ガイドライン」のもと、継続的な企業価値向上のため、企業の社会的責任と食品会社としての「食」の安全・安心に対する責任を常に意識し、経営の意思決定の迅速化を図りながら機能的な経営組織の整備を進めるとともに、責任の明確化を図り効率的な経営を推進しています	企業の社会的責任と食品会社としての「食」の安全・安心を守り、企業コンプライアンスを維持する	
		コンプライアンス	「ハラスメント相談窓口」や「企業倫理ヘルプライン(相談窓口)」を設置し、コンプライアンス違反の防止に取り組んでいます		
		リスクマネジメント	「リスク管理規則」のもと、リスクを組織的・体系的に特定、分析、評価し、その適切な回避または低減を図っています		
	ESG項目 ▶ Social				
	人権	人権尊重	人種、信条、性別、社会的身分、国籍等を理由にした不当な対応を禁止する「三井製糖行動基準」を制定しています	「三井製糖行動基準」を遵守する	
	公正な事業慣行	公正取引遵守	お客さまやお取引先と健全な関係を保ち、透明で自由な競争を通じて公正な取引、責任ある調達を行うことを定めた「三井製糖行動基準」を制定しています		
お客さまの ために ▶P.11-14	消費者課題	製品の品質および安全性	「三井製糖グループ品質方針」並びに「ISO9001およびFSSC22000の活動」のもと、日頃から食品安全の強化に努め、お客さま満足度向上のための取り組みを推進しています	安全で安心な製品の品質基準を遵守する	12
社会のために ▶P.19-22	コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	地域活動	食育を中心とした様々な地域活動を通して、食の楽しさ・文化の大切さを伝える取り組みを推進しています	地域社会に貢献できる活動に積極的に参加する	3 3030 4 4000 11 11000
		産業育成	持続的なサトウキビ農業を推進するため、タイにおいて長年様々な取り組みを推進しています		2 2000 12 12000
	労働慣行	従業員の健康安全	「労働安全衛生マネジメントマニュアル」および「ISO45001の活動」のもと、従業員の安全衛生管理を実施しています	働く方々の安全と人権を守る	3 3030
		人材育成、ダイバーシティ	社員同士の個性、多様性等を尊重し、自由闊達に意見を交わすことのできる明るい職場環境づくりを推進しています		5 5000 8 8000
	ESG項目 ▶ Environment				
環境のために ▶P.15-18	環境	温室効果ガス排出削減	「環境方針」および「ISO14001の活動」のもと、継続的な活動を実施しています	環境負荷低減活動および環境貢献活動を継続する	12 12000
		大気汚染			
		水の使用量と排水量			
		廃棄物・危険性物質の管理			
		省エネルギー			
生物多様性保全	サトウキビの生産地である鹿児島県徳之島で生物多様性保全活動を実施しています				

※当社のSDGsについてはP.23にて説明

三井製糖の考える サステナビリティフレームワーク

当社は自らを取り巻く環境の変化をとらえ、これまでの取り組みを踏まえながらサステナビリティフレームワークを策定しました。当社の活動に特に関係の深い3つの領域「お客さま」「環境」「社会」に沿って取り組みを進めていきます。



1 お客さまのために Customer

暮らしに欠かせない砂糖や食品素材を安全・安心・高品質で供給すべく、グループ一丸となって取り組んでいます。また、お客さまからいただいた声に真摯に耳を傾け、商品改良につなげていきます。



Key Numbers



売上

No.1

精糖工業会加盟の上場会社
2021年3月期売上高比較



砂糖商品

72

アイテム

砂糖商品カタログ掲載数
(2021年4月1日現在)



生産拠点

3 14

カ国 拠点

精製糖工場、てん菜糖工場、甘蔗糖工場の合計(当社グループの1工場を1拠点としております)



お客さま満足度

98%

2020年度「お客さま満足度アンケート」にて「満足」「まあ満足」を選択されたお客さまの割合

三井製糖グループ 品質方針



基本理念

わたしたちは、安全でお客様にご満足いただける商品・サービスをお届けし、豊かな食生活に貢献します。

※「品質への取り組み」より、一部抜粋

詳しくは三井製糖ウェブサイト参照
<https://www.mitsui-sugar.co.jp>

三井製糖としての品質の取り組み

三井製糖の両事業(砂糖事業、ライフ・エナジー事業(旧フードサイエンス事業))に関わる全社的な品質関連事項を討議、方針決定する場として「品質保証委員会」を設置しています。本委員会は、品質保証部長を委員長とし、営業、開発、生産、物流部門の品質責任者が委員となり、年1回以上の頻度で開催しています。

砂糖事業では、開発・生産・物流・品質保証部門でISO9001^{※1}を認証取得し、生産部門(千葉・神戸・福岡工場)ではFSSC22000^{※2}を認証取得し、日頃から品質向上・食品安全の強化に努めています。2020年度はFSSC22000 Version5

への規格改定の審査を受け、認証の移行が完了しました。

ライフ・エナジー事業(旧フードサイエンス事業)では、営業・開発・生産・物流・品質保証部門を含む事業全体でISO9001を認証取得し、生産部門ではHACCP方式^{※3}に基づく品質管理を行っています。

※1 ISO9001: 製品・サービスの品質向上と顧客満足の向上を目的とする国際規格のこと。

※2 FSSC22000: 食品安全認証財団FFSC (Foundation for Food Safety Certification)が開発・運営している食品安全のための国際規格のこと。

※3 HACCP方式: 製造工程の危害の分析と重要管理点の監視による衛生管理手法のこと。

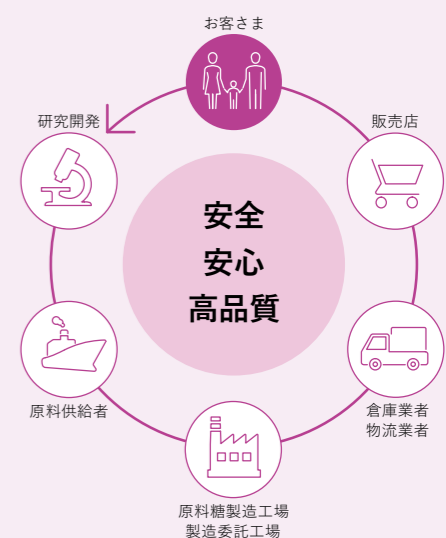
三井製糖の各工場における品質マネジメント (ISO9001、FSSC22000取得状況)

工場	製造品目	取得済み認証
千葉工場	精製糖 (上白糖、グラニュー糖など)	ISO9001 FSSC22000
神戸工場	精製糖 (上白糖、グラニュー糖など)	ISO9001 FSSC22000
福岡工場	精製糖 (上白糖、グラニュー糖など)	ISO9001 FSSC22000
R&Dセンター	さとうきび抽出物	ISO9001

三井製糖グループ クオリティチェーン

食品を扱う企業にとって最も大切な安全・安心・高品質を常に徹底するため、全社的な品質保証体制を構築し「三井製糖グループのクオリティチェーンの各段階で一人ひとりが品質への責任を果たす」という基本姿勢をグループ全体で共有しています。

詳しくは三井製糖ウェブサイト参照
<https://www.mitsui-sugar.co.jp>



「お客さまのために」の事業活動と関連の深いSDGs



三井製糖グループとしての品質の取り組み

年1回グループ各社の品質保証関係実務者が集まり、「三井製糖グループ品質保証連絡会議」を開催しています。2020年度はオンライン会議形式で開催し、食品衛生法等の法令改正への対応に関する情報交換や意見交換を行い、食品製造業における開発

設計の進め方に関する勉強会を行いました。

グループ会議以外でも、国内外のグループ各社の状況に応じてそれぞれ協議や提言を行うなどして、グループ各社の品質保証体制向上に資する取り組みを適宜行っています。



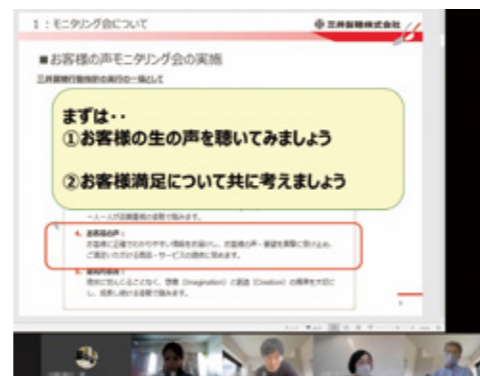
三井製糖グループ品質保証連絡会議の様子

お客様相談窓口とお客様満足度向上のための取り組み

お客さまからいただいた声は、徹底したセキュリティ管理のもと、独自のシステムに全て入力し社内でも共有し、関連部署とのタイムリーな連携が可能となっています。お客さまに安心して商品をご利用いただけるよう、迅速・丁寧かつ誠実な対応で正しい情報提供に努めています。また、お客さまの声を整理・分析して、毎週社内従業員に配信し、VOC (Voice of Customer) 検討会・品質推進会議等で役員・関連部署と共有して、よりご満足いただける商品・サービスの開発や改良につなげています。

お客様相談窓口では、お客さまによりご満足いただけるよう、各種のお客さま対応研修を行っています。商品知

識・商品開発や個人情報保護法等の関連法令を知る勉強会のほか、実際のお客さまとの会話の対応を評価・分析し、フィードバックすることで対応の改善につなげています。また、2015年度から役員・全従業員を対象に「お客様の声モニタリング会」の活動を行っています。参加者は、お客さまの視点に立ち「お客さま満足」について活発な意見交換を行い、商品・サービスの改良につなげています。また、ご指摘をいただいたお客さまを対象に「お客さま満足度アンケート」を実施しています。ご回答いただいたアンケートの結果を真摯に受けとめて、お客様相談窓口対応の品質向上に取り組んでいます。

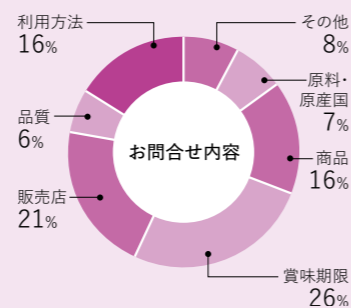
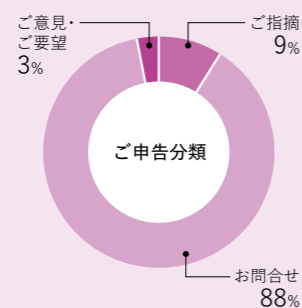


本社でのモニタリング会の様子

お客さま満足度アンケートの結果 2020年度

今回の対応にお客さまはご満足いただけましたでしょうか

満足 **84%**
まあ満足 **14%**
やや不満 **0%**
不満 **2%**



お客さまのニーズに合わせた商品の開発

ありそうでなかった ボトル入り「サッと使える砂糖」

2021年4月に発売した「サッと使える砂糖ボトル260g」は、片手でサッと振り出せるボトル入りの砂糖です。サラサラのブラウンシュガーで、湿気などで固まった場合は揉んでほぐせる柔らかいボトルを採用しています。使ったお客さまからは「さじが不要で洗い物が減る」「片手で使えて便利」「コンパクトで保存しやすい」など、現状のストレスを解消できるというお声をいただいております。またブラウンシュガーは料理から飲み物まで幅広く使え、まろやかな甘みも好評です。ご要望にお応えして、9月には「詰め替え用200g」を発売。ボトルを繰り返し使えるので、プラスチックごみ削減につながります。

サステナブルに人々の健康に 寄与する商品の開発

サステナブルに人々の健康に寄与するべく、脂肪吸収抑制機能を持つ食品素材「リピスマート®」を株式会社ファーマフーズと共同開発いたしました。「リピスマート®」は「ゴマ」を原材料としてつくられ、ゴマ本来の様々な健康機能成分に加え、独自技術により引き出した脂肪の吸収を抑える効果を兼ね備えています。「リピスマート®」は、サステナブルに人々の健康に寄与する商品として、世界中の人々の肥満予防に貢献します。当社は今後も既存の商品のみにとらわれず、より多くのお客さまのよりよい暮らしに貢献できるような商品開発を行ってまいります。



リピスマート®



サッと使える砂糖ボトル260g
詰め替え用200g

2 環境のために Environment

事業基盤である「自然の恵み」を守るため、
三井製糖は環境パフォーマンスの向上を図ります。
持続可能な社会の実現に向けて資源の有効活用や
生物多様性保全活動にも積極的に取り組んでいきます。

Key Numbers



廃棄物の再資源化率

96.3%

2018年度比 1.9ポイント減



生産拠点のCO₂排出量

1.6 万t減

2020年度 6.6万t
2018年度 8.2万t



オフィスのCO₂排出量

13 t減

2020年度 86t
2018年度 99t



物流部門のCO₂排出量

667 t減

2020年度 6,211万t
2018年度 6,878万t

「環境のために」の事業活動と
関連の深いSDGs



◀当社が生物多様性
保全活動を支援している
鹿児島県徳之島

ECO NEWS!

徳之島世界自然遺産登録

当社が10年間支援している徳之島虹の会が活動する徳之島が世界自然遺産登録されました。当社と虹の会の活動はECO TOPICS-1をご覧ください。



那覇

中長期目標

当社は、ISO14001環境マネジメントシステムを活用しながら、全社で環境負荷低減や環境への配慮活動に取り組んでいます。特に、生産拠点(精製糖工場)において使用する総エネルギー量の削減などに精力的に取り組んだ結果、「2022年までにCO₂排出量15%削減(2013年度比)」という中長期目標(当時)を、5年も早い2017年度に達成しました。

2018年度からは、「2030年度までにCO₂排出量26%削減(2013年度比)」を中長期目標として掲げておりますが、昨今の世界的な脱炭素社会への移行の流れを受け、現在その見直しを行っております。

今後は、製品輸送面も加味した長期的かつ高水準なCO₂削減目標を策定するとともに、生産設備の省エネ推進等にも取り組むことにより、より高いレベルでのISO14001環境マネジメントシステムの運用に努め、持続的な環境負荷低減を実現してまいります。

環境方針

基本理念

三井製糖は、豊かな環境のもとで生育するサトウキビなど自然の恵みをベースに事業展開しております。この豊かな恵みが、将来にわたって享受できるよう環境との調和を図り、健全な自然を次世代に引き継ぎ、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

行動指針

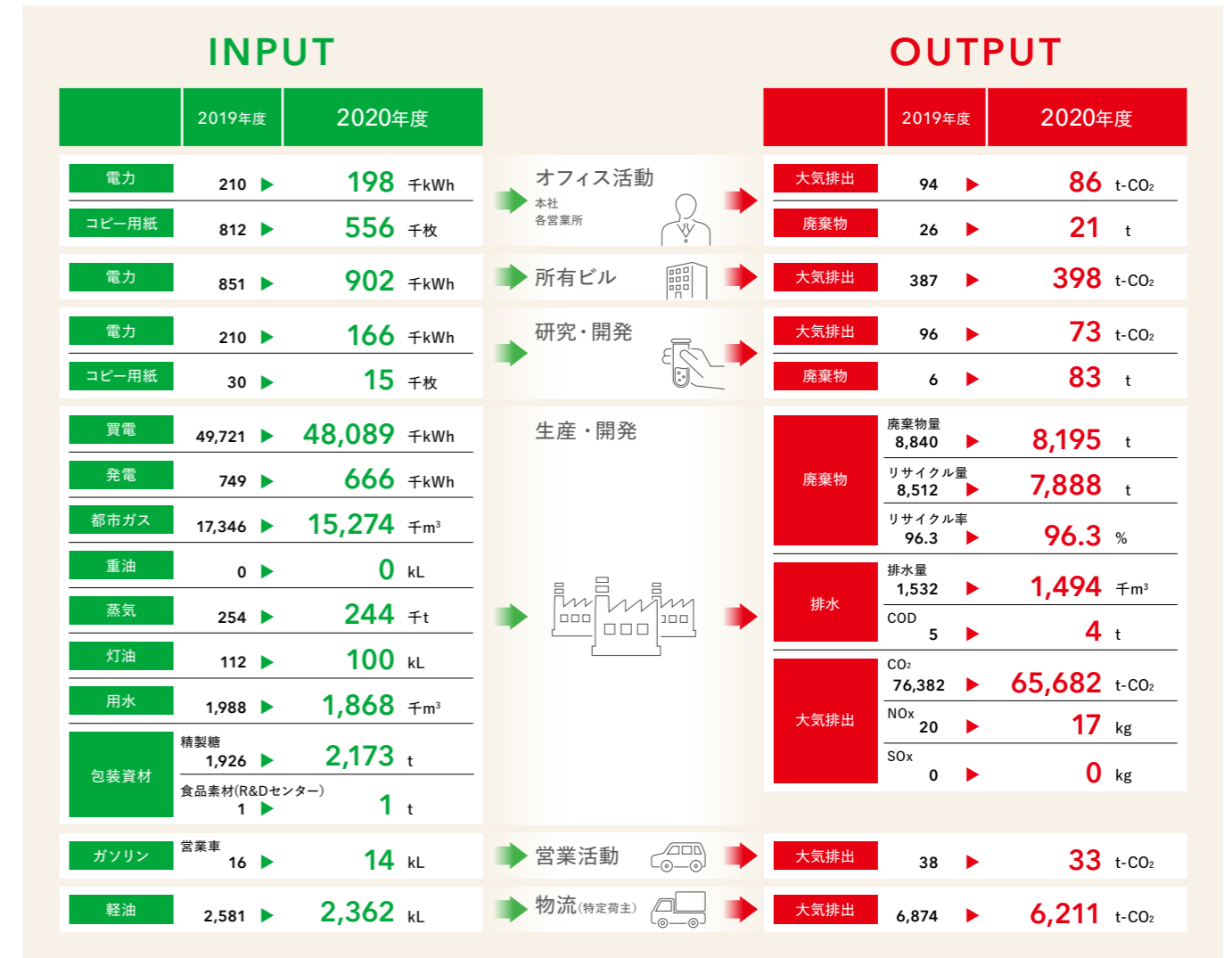
- 1 当社は、その全ての企業活動で地球環境に影響を与えていることを認識し、環境マネジメントシステムや環境保全施策を継続的に改善し、環境パフォーマンスの向上を図ります。
- 2 環境関連法規・協定等を順守すると共に、必要に応じて自主管理基準を設定し、管理レベルの向上を図ります。
- 3 原材料の調達から生産・物流・販売・消費・廃棄に至るすべての段階において、地球温暖化ガスの削減や廃棄物の削減・リサイクルを通じた環境負荷の低減に取り組みます。
- 4 環境に配慮した商品開発や資源の有効活用に努めると共に、再生可能エネルギーの活用を図ります。
- 5 環境教育を通じ、従業員の環境意識の向上を図り、環境と調和の取れたライフスタイルを志向するとともに、地域環境に貢献していきます。
- 6 関係会社および資材の調達先等の取引先において、環境問題への取組みを促し、支援活動を図ります。
- 7 企業活動による生物多様性への影響を認識し、保全に繋がる活動に取り組んでいきます。
- 8 情報開示を促進し、企業市民として地域や社会との関わりを積極的に図ります。

環境マスタープラン

2020年度実績と2021年度目標

分類	重点項目	2020年度目標	2020年度実績	判定	2020年度活動報告	2021年度目標
環境教育	環境知識の習得	新入社員研修、内部監査員研修等の実施及び定期的な環境時事情報の配信	活動実施	○	Webでの集合研修やe-ラーニングを活用した環境知識の習得を実施	社内研修等を活用した環境知識の習得及び定期的な環境時事情報の配信による環境意識高揚と啓発
地球温暖化防止	生産拠点(精製糖工場)のエネルギー原単位削減	生産拠点(精製糖工場)のエネルギー原単位削減9.0%(2013年度比)	生産拠点(精製糖工場)のエネルギー総量: 2013年度比 24.5%削減	△	生産拠点(精製糖工場)の安定操業と効率的な運転に努め、エネルギー総量を削減	生産拠点(精製糖工場)のエネルギー原単位削減10.0%(2013年度比)
			生産拠点(精製糖工場)のエネルギー原単位: 2013年度比 7.0%削減			
	輸送のエネルギー原単位削減	輸送のエネルギー原単位削減8.0%(2013年度比)	輸送のエネルギー原単位: 2013年度比 14.9%削減	○	モーダルシフトの推進、輸送の効率化、輸送拠点の見直し	輸送のエネルギー原単位削減9.0%(2013年度比)
資源の有効活用	サトウキビの有効活用	バガス(サトウキビの搾りかす)の有効活用	活動実施	○	テストプラントのあるタイにおいて現地スタッフへの技術移管完了	バガスの有効活用
	環境に配慮した商品包装開発	環境負荷低減素材への代替案検討	活動実施	○	環境にやさしい水性印刷、クラフト貼りチャック付き袋入り商品のオンライン販売を開始	環境負荷低減素材への対応を推進
コミュニケーション	ステークホルダーとの関わり	対話実施	活動実施	○	関係会社との情報交換、CSR報告書の発行	ステークホルダーとの対話の実施
生物多様性保全活動	生物多様性保全活動の支援	活動実施	活動実施	○	鹿児島県徳之島のNPO法人「徳之島虹の会」への支援活動を継続実施	生物多様性保全活動の実施

三井製糖のエコバランス(2020年度)



ECO TOPICS-1

地元NPO法人と協働した徳之島での生物多様性保全活動

当社は、鹿児島県徳之島のNPO法人「徳之島虹の会」と協力しながら、島民の環境教育を主とした生物多様性保全活動に2012年度から取り組んでいます。2020年度は小中学生向けに、徳之島の自然を活かし各学年の学習内容に合わせた出前授業に協賛しました。

徳之島には、貴重な固有種、絶滅危惧種等が多く生息しています。また、当社の砂糖事業の根幹であるサトウキビ産業があり、産業と共生する徳之島の自然を守ることが、持続可能な社会の実現のひとつであると考えています。

その徳之島が、2021年7月に世界自然遺産に登録されました。「世界の宝」となった徳之島と、当社はこれからも共に歩んでまいります。

徳之島虹の会 <http://www.shimaniji.com/>



上: ガイドとしてのエコツアー体験の様子
下: 出前授業の様子

ECO TOPICS-2

子どもたちと考えるサトウキビのSDGsセミナー

砂糖の原料であるサトウキビは、植物の中でも非常にサステナブルな作物です。砂糖を事業の根幹に据え、サトウキビのスペシャリストでもある当社は、未来ある子どもたちに向け「サトウキビのSDGsセミナー」をサトウキビの一大生産地、タイからオンライン開催しました。

サトウキビの魅力がぎゅっと詰まった授業は、配信中でも積極的にチャットで子どもたちの意見が飛び交い、大盛況となりました。



3 社会のために Society

食育を始めとする様々な“食”への取り組みや社会貢献活動を継続して行っています。
また、社員に対しては心身の健康管理の維持・向上に努め、一人ひとりが能力を発揮できる職場環境づくりを進めています。

Key Numbers



食育セミナー
受講者数

2,973名

2014年度から延べ人数



女性管理職比率

7.5%

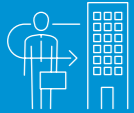
2020年度



育児休業復職率

100%

2020年度



定年再雇用率

100%

2020年度

「社会のために」の事業活動と関連の深いSDGs

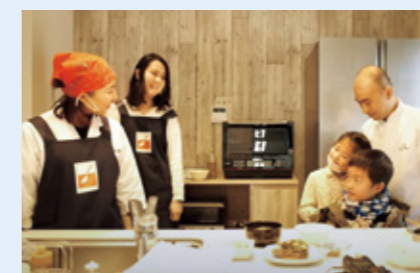


食への取り組み

おうちで食育! オンライン親子料理教室

食への親しみと、おうち時間の一層の充実をお手伝いするべく、親子向け料理教室をオンライン配信しました。前半は砂糖の授業として、砂糖の種類や製造過程、豆知識までクイズを交えて解説。「ふわふわ」・「しっとり」・「もちもち」をキーワードに、砂糖の調理効果もお伝えしました。

後半の調理実演には料理人の方をお招きし、砂糖の調理効果を活かした和食献立を、親子の皆さんと、オンライン越しで楽しく作っていただきました。全国から総勢250名が参加し、子どもたちの笑顔がはじける温かい会となりました。



オンライン親子教室の様子

食の力でアスリートを応援! ジェフユナイテッド 市原・千葉との栄養セミナー

オフィシャルスポンサーを務めるジェフユナイテッド市原・千葉では、選手だけでなく、サッカースクールに通う子どもや保護者に向けた栄養セミナーも行っています。2020年度は「WIN BY ALL! からだをつくる勝ちゴハン」と題し、選手へ提供しているパラチノース®がスポーツに良い理由を解説したのち、公認スポーツ栄養士によるパラチノース®と千葉の名産を使った「勝ちゴハン」の調理実演を行いました。作りやすいレシピは視聴者にも好評で、食を味方に一層サッカーを頑張してほしいという思いが伝わる会となりました。

当日の様子はこちら



©JEFUNITED

栄養セミナーの様子

三井製糖グループの願う世界観—“One Table”

三井製糖グループは、事業を通じて実現したい世界観を“One Table”と称しています。

One Tableとは、だれもが、食卓を分けることなくいつまでも団欒を楽しむことの出来る世界です。

年齢や健康状態にとらわれずに美味しさを楽しむ世界を実現するため、三井製糖グループは長年、甘

みを中心に美味しさを追求しながら、健康増進に寄与する機能性素材の研究や食品素材の用途開発、医療・介護現場のニーズに応える製品開発に取り組んできました。

美味しい笑顔のそばにあり続けるために、これからも三井製糖グループはOne Tableの実現を目指した活動を続けていきます。



社員とともに

健康で健全な環境作り

全ての社員が心身ともに健康であるために、様々な取り組みを実践しています。

「健康管理」においては、保健師(看護師)による日々の健康管理や健診後のフォロー、インフルエンザ予防接種の実施など、社員の健康管理の維持・向上に努めています。メンタルヘルスの観点では、EAP(従業員支援)システムの運用や、ストレスチェックに加え、毎年異なるテーマで研修を開催し、社員自身がこころやかならだの状況について気付きを得られる取り組みを行っています。

「健康経営」においては、社員の健康を経営課題と捉え、健康経営度調査への参加や健康保険組合と連携した取り組みなど様々な施策を進めています。今後も社員の心身の健康管理の維持・向上に努めてまいります。

ダイバーシティの推進

社員一人ひとりの価値観、多様性を尊重し合い、会社の成長につなげていくことを目指しています。女性社員の活躍推進では、育児休業からの復帰者は100%

です。全社員の女性比率は25%、管理職比率は8%であり、引き続き女性社員が活躍できるよう、キャリア開発、職場風土醸成等に取り組んでいきます。

男性社員の育児休業取得者も少しずつ増えてきました。今後も男性の育児休業取得を推進し、男性の仕事と子育ての両立に対する職場の理解を深めていきます。

その他、介護離職防止に向けた「仕事と介護の両立セミナー」を開催する等、性別・年齢・障害・国籍を問わず多様な人材がいきいきと働けるよう、様々な取り組みを行っています。

人材育成

当社は、社員の「自立×自律」をキーワードに、主体的に業務に取り組む自立した人材の育成を目指し、教育体系を整えています。

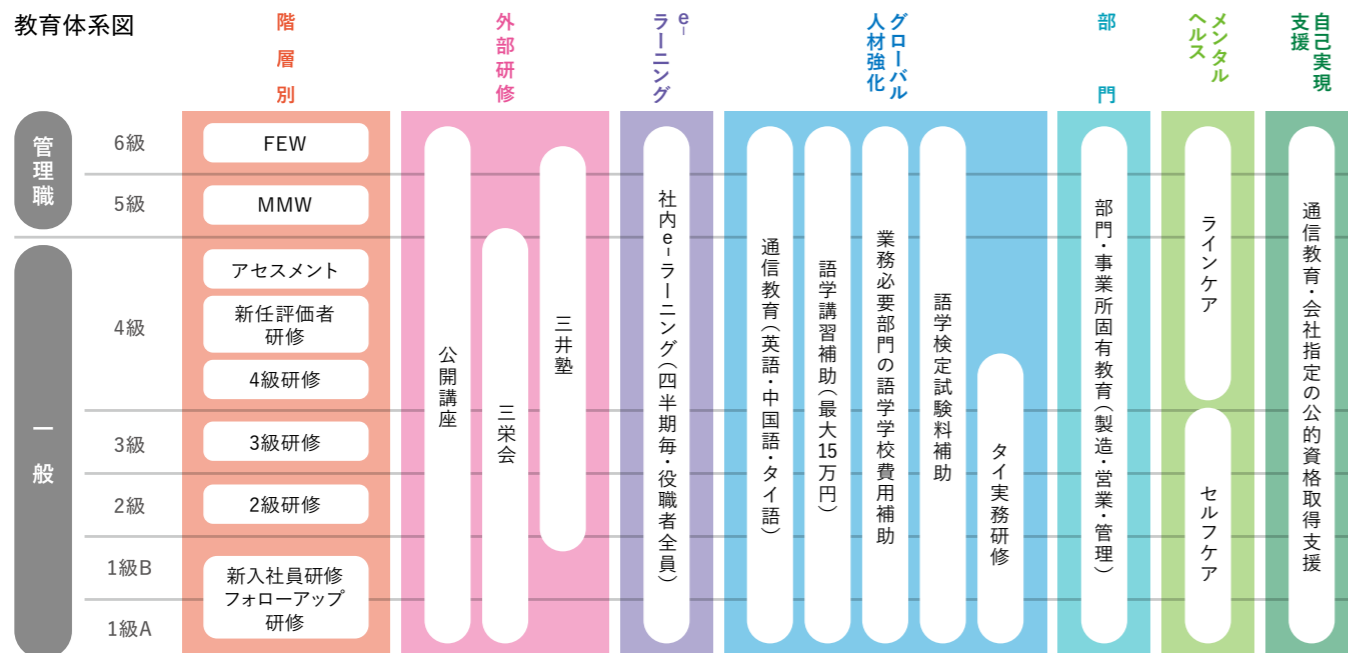
近年、「グローバル化」や「連結経営」の展開とともに国内外を問わず様々な場所で働く機会が増えており、専門知識や語学等の個の実力アップ、階層に即した現場でのマネジメント力の発揮が更に求められてきています。

2019年度からは新入社員研修に、ビジネス英語の理解と継続的な学習の必要性を体感する場として「英会話研修」を導入しました。その他、海外への研修生派遣等、グローバルマインドの醸成の機会を増やしています。また、階層別研修も定期的に行い、将来を担う人材の育成を図っています。



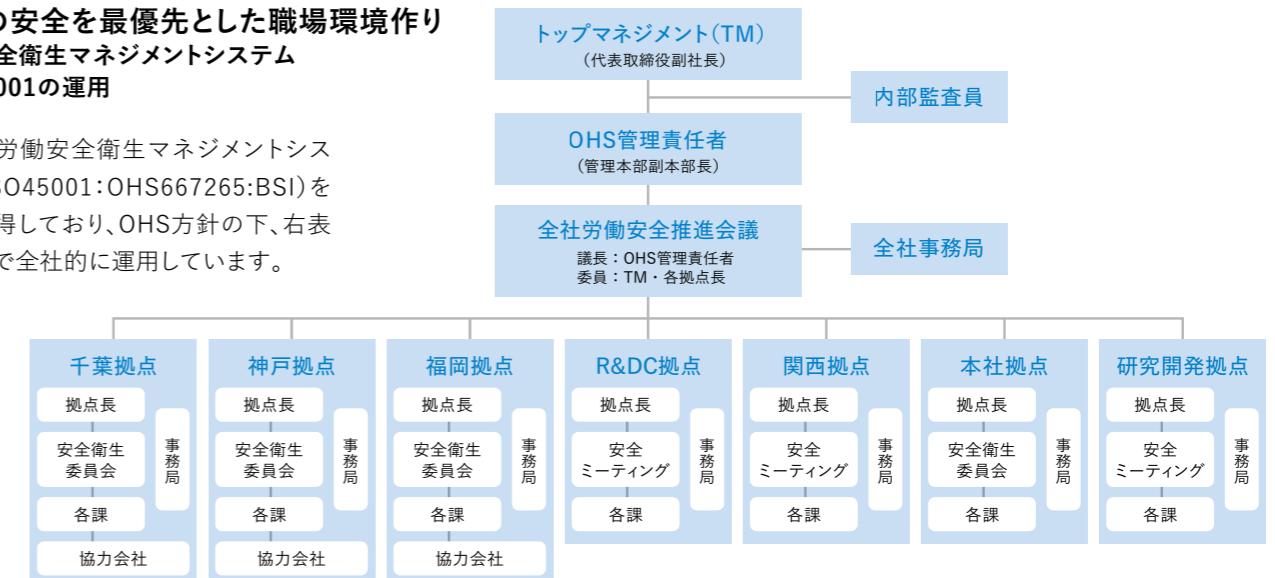
オンライン研修の様子

教育体系図



社員の安全を最優先とした職場環境作り 労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001の運用

当社は労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001:OHS667265:BSI)を認証取得しており、OHS方針の下、右表の体制で全社的に運用しています。

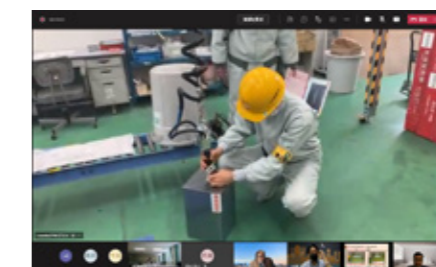
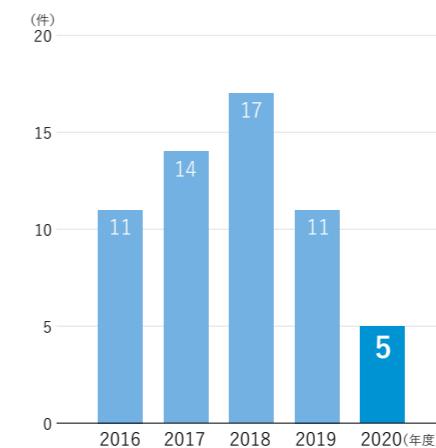


近年の労災発生件数の推移(構内常駐の協力会社含む)と 2020年度の主な取り組み

2020年度の労災発生件数は、近年では最も少ない5件(重篤労災0件)となり、その度数率^{※1}および強度率^{※2}は業界平均と比較して、大きく下回る結果となりました。これまで地道に取り組んできたリスクアセスメント^{※3}やKY活動^{※4}、安全文化向上取組の成果があらわれてきたものととらえる一方、未だに労災撲滅に至っていない事について更に活動を活発化させる必要があります。

一方、現場での活動において、2020年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受けた年になりましたが、専門家による安全巡視では、リモート用機材を揃えることで現地と各拠点、安全顧問をネットでつないだオンライン巡視を実現させました。直接現場を巡視する方法に比べ工夫の余地はあるものの、多くの関係者が参加できる利点も活かして、コロナ禍でも活動を緩めることなく、創意工夫しながら安全レベルの向上に取り組んでいます。

過去5年間の労災発生件数推移



リモート安全巡視の様子

※1 度数率:災害発生の頻度(労災件数/延実労働時間)
 ※2 強度率:災害の重さの程度(休業日数/延実労働時間)
 ※3 リスクアセスメント:リスクを評価し、事前に対策を講じる活動
 ※4 KY活動:作業前に現場で作業者が危険を抽出し、対策を講じて作業にあたる活動

Our Safety Commitment



私達の労働安全衛生方針

私達は三井製糖で働く人々の安全が第一と考えます。安全衛生を守るために、私達は次の事項に最善を尽くします。

- S** **afety & Health**
安全衛生は当社に関わる全ての人々の仕事です
- U** **nsafe risk control**
不安全なリスクの低減に全員で取り組みます
- G** **ood management**
日々、安全衛生を追求し、継続的改善に繋がります
- A** **ctivity**
「安全意識改革」と「安全行動」に徹します
- R** **esponsibility**
法令等のルールを順守します

コーポレート・ガバナンス

三井製糖の行動基準

三井製糖の企業理念「三井製糖は、安心・信頼・天然の食品素材を誠実に提供し、豊かなくらしに貢献します」の追求は、社員一人ひとりの課題です。三井製糖社員は、生活を支える自然の恵みに感謝すると同時に、想像(Imagination)と創造(Creation)の精神をもって新たな付加価値を創出し、持続可能な経済成長と豊かな社会の実現を目指します。三井製糖社員は、次の7つの項目で表した行動基準に則り高い倫理観をもって活動し、積極的に社会的責任を果たしていきます。

1. コンプライアンス

法令遵守

2. 労働安全の追求

- ①労働安全衛生
- ②職場環境の整備

3. 社会との関係

- ①社会貢献
- ②人権の尊重
- ③環境保護と資源の有効活用
- ④政治・行政との健全な関係維持
- ⑤反社会的勢力との決別
- ⑥危機管理の徹底

4. お客様・消費者との関係

- ①「食の安全・安心」の確保
- ②「食育」の推進
- ③創意工夫、チャレンジ精神、イノベーション
- ④公正な取引

5. 株主・投資家との関係

- ①適時開示と内部者取引防止
- ②ステークホルダーとのコミュニケーション

6. 会社との関係

- ①個の尊重と人間力の結集
- ②会社財産および情報の保護

7. 行動基準の取扱い

- ①行動基準の遵守と企業理念の実現
- ②解決および再発防止

※「三井製糖行動基準」より、一部抜粋

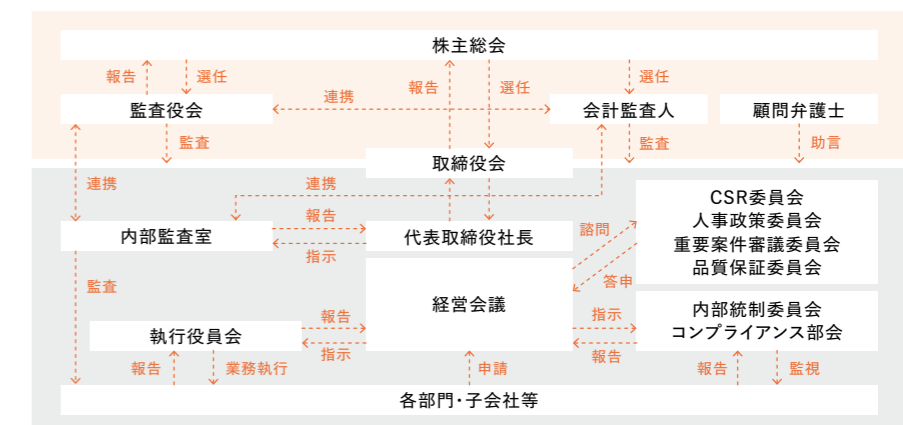
詳しくは三井製糖ウェブサイト参照
<https://www.mitsui-sugar.co.jp>

コーポレート・ガバナンスおよび内部統制

ステークホルダーに対して公正で透明性の高い経営を行い、コンプライアンスの重視と迅速かつ正確な情報開示をコーポレート・ガバナンスの基本としています。コーポレート・ガバナンス体制は、右図「三井製糖のコーポレート・ガバナンスおよび内部統制に関する体制」の通りです。

内部統制については、業務の有効性と効率性の向上、財務報告の信頼性の確保および法令等を遵守する体制を構築しております。なお、2021年4月1日の経営統合に伴い、DM三井製糖ホールディングスは監査等委員会設置会社へ変更しております。

三井製糖のコーポレート・ガバナンスおよび内部統制に関する体制



※2021年3月31日時点

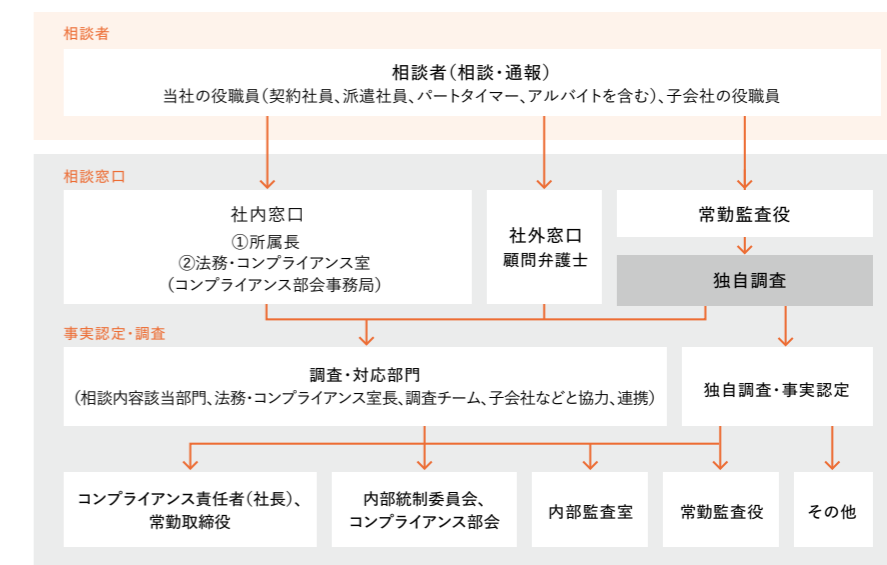
コンプライアンス

「食」に携わる企業として品質保証体制の充実を図り、全てのステークホルダーの満足を得ることを基本方針とするコンプライアンス・プログラムを策定することにより、コンプライアンス推進体制を整備しています。当社グループ全体の法令遵守に対する意識を強化するため、全従業員を対象に毎年e-ラーニングや集合研修を行い、従業員のコンプライアンス知識・意識の向上に努めています。また、「ハラスメント相談窓口」や「企業倫理ヘルプライン(相談窓口)」設置によるコンプライアンス違反の防止、ストレスチェックの実施等による従業員の安全衛生管理にも取り組んでいます。

リスクマネジメント

リスク管理規則や危機管理対応ガイドラインを定め、人の身体生命の安全確保を最優先に事業活動を維持し、全役職員が一丸となって損失の最小化、損害の復旧等に取り組むことを基本方針としています。また、「食」に携わる企業として、食品事故対応マニュアルを策定し、食品事故による被害の発生や拡

企業倫理ヘルプライン相談窓口



TOPICS

SDGs 重点的な目標について

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」について、当社でも課題解決に向けた取り組みを毎年本紙でご報告しております。17の目標、169のターゲットに対し、三井製糖グループが取り組んでいる項目は数多くありますが、その中でも右記の3つを重点的な目標と位置付けています。

当社の糖をはじめとした製品は人々の笑顔やパフォーマンスを向上させる素であり、事業活動を深化させていくことが人々の健康的な生活の確保をはじめ、持続的な生産消費形態や働き甲斐のある職場の実現など社会課題を解決することにつながります。

社会全体の課題に対し、当社の視点からできる取り組みをこれからも積極的に行ってまいります。



2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
 だれもが栄養のある食料を十分手に入れられるよう、地球の環境を守り続けながら農業を促進する



3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
 消費者がより健康的なライフスタイルに適応するよう支援する



12 持続可能な生産消費形態を確保する
 調達・製造・包装・ロジスティクスを含むバリューチェーン全体でエネルギー効率を高める

三井製糖グループの事業概要

三井製糖

砂糖事業

トップブランドへの信頼に応える

お料理や食品加工に欠かすことのできないお砂糖。三井製糖は、常により良い商品をお届けするために、原料糖[※]の調達からお客さまのお手元に届くまで一貫した品質管理を徹底するとともに、お砂糖をより美味しく、より健康に摂取していただくための研究やアプリケーションの開発に努めています。

※原料糖：さとうきび・てん菜から糖分をとりだし、結晶化したもの

主要商品



上白糖

しっとりソフトな風味が料理、菓子、飲み物など、何にでも合います。国内で最も多く使われている日本特有の砂糖です。

グラニュー糖

クセのない淡白な甘さで、サラサラした純度の高い砂糖です。コーヒー、紅茶などの飲み物やお菓子づくりに使われます。

三温糖

しっとりとして使いやすく、コクのあるやさしい風味が特徴です。上白糖と同じく、日本特有の砂糖です。

国産さとうきび糖

沖縄のサトウキビからつくられた、まろやかな甘さの砂糖です。コクがあり、料理をおいしく仕上げます。

国産てん菜糖

北海道のてん菜から作った砂糖に、てん菜糖蜜を配合しました。溶けやすい粉末でコクのあるやさしい甘さが特徴です。

スローカロリーシュガー

体内でゆっくり吸収される糖質“パラチノース[®]”と砂糖をミックスした製品です。上白糖のようにどんな料理にも使えます。

ライフ・エネルギー事業

新たな素材の可能性を広げる

ライフ・エネルギー事業では、機能性甘味料や、サトウキビに含まれる有用物質などの商品化に取り組んでいます。また三井製糖グループ全体で、様々な技能やノウハウを結集し、心と身体の健康と安全を探求し、新たな素材の可能性を提案しています。



さとうきび抽出物

サトウキビから有効成分を抽出した天然の食品素材です。食品の好ましくない味の改善、不快なおいの消臭など、様々な効果を持っているため、食品分野をはじめ環境消臭剤など、幅広い分野で使用されています。



パラチノース[®]

砂糖からつくられる二糖類で、体内でゆっくりと消化吸収される特性があります。消化吸収速度が砂糖の約1/5であり、血糖値、インスリンの上昇も緩やかです。



パラチニット[®]

砂糖を原料として生まれた低カロリー甘味料です。カロリーは砂糖の半分で、砂糖に似た良質の甘味を有しており、ノンシュガーやシュガーレスという表示が可能です。

不動産事業

地域社会への貢献を目指す

暮らしに密着した精製糖メーカーとして、地域社会への貢献を目指す三井製糖。その一環として社有不動産の有効活用を図っており、不動産賃貸事業を通じて地域社会の発展に貢献しています。



グループ会社

三井製糖グループ各社がそれぞれのフィールドで全ての人に食の楽しさを提供することを目指しています。

北海道糖業(株)

道内で砂糖の製造・販売を行っています。またバイオ事業や農業機械の開発・製造・販売等も行い、道内の地域経済に貢献しています。

スプーンシュガー(株)

スティックシュガー等の加工糖の製造や、砂糖の包装・荷役作業、包装資材の製造・販売等を行い、当社の砂糖事業を支えています。

生和糖業(株)

鹿児島県喜界島でサトウキビから原料糖の製造・販売を行っています。喜界島に欠かせない基幹作物であるサトウキビを生産することで、地域経済に貢献しています。

(株)平野屋

砂糖や食品の卸売を行っています。流通網の強化やサービスの充実を図り、お客さまのニーズに応える提案型事業展開を進めています。

SIS`88 Pte Ltd

シンガポールや中東で精製糖の販売を行っています。海外から精製糖を輸入し再包装や加工を付して販売しており、同地域で高いブランド力を有しています。

Asian Blending Pte Ltd

シンガポールなどで加工糖の製造・販売を行っています。同地域において、高品質製品の開発力を有しています。

(株)タイショーテクノス

食品用天然色素や寒天・ゲル化剤等の食品添加物をはじめ、機能性食品素材等の製造・販売を行っています。今後は健康分野への更なる貢献やグローバル展開にも力を入れています。

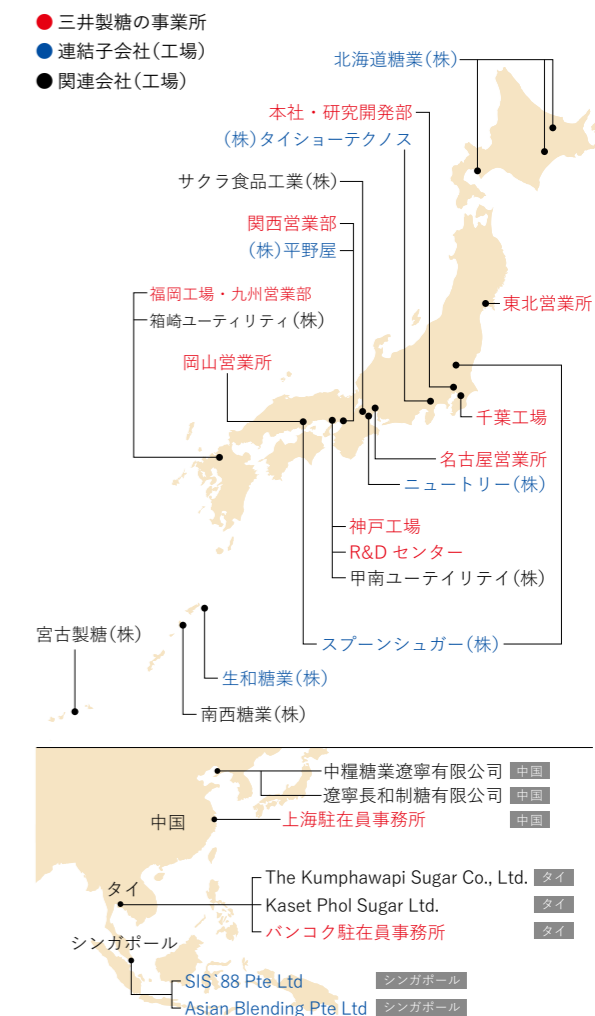
ニュートリー(株)

栄養素補給食品および嚥下サポート食品等の開発、製造および販売を行っています。当社とは、新商品開発や生産部門における技術交流、品質保証分野等において協働し、介護食分野における拡大を目指しています。

三井製糖会社概要

商号	三井製糖株式会社 (Mitsui Sugar Co., Ltd.)
本社所在地	東京都中央区日本橋箱崎町36番2号
代表者	代表取締役社長 森本 卓 (2021年4月1日現在) 代表取締役副社長 野村淳一
設立日	1947年(昭和22年)9月4日 (2021年3月31日現在)
資本金	70億8,300万円 (2021年3月31日現在)
発行済株式総数	28,333,480株 (2021年3月31日現在)
上場証券取引所	東京証券取引所第1部 (2021年3月31日現在)
主要事業	精製糖並びに砂糖関連商品の製造、販売
年間売上高	(連結) 1,088億8,700万円 (2021年3月期) (単体) 553億8,800万円
従業員数	(連結) 1,222名 (2021年3月31日現在) (単体) 347名

事業所・関係会社



※2021年3月31日 現在

CSRファクトデータ | CSR Fact Data

環境 | Environment

※3工場：千葉工場、神戸工場、福岡工場
 ※3 factories: Chiba Factory, Kobe Factory, Fukuoka Factory
 ※オフィス：本社、東北営業所、研究開発部、関西営業部、名古屋営業所、岡山営業所
 ※Offices: Head Office, Tohoku Sales Office, R&D Division, Kansai Sales Division, Nagoya Sales Office, Okayama Sales Office

指標 Index.	単位 Unit	2018年度 FY 2018 1/Apr./2018-31/Mar./2019	2019年度 FY 2019 1/Apr./2019-31/Mar./2020	2020年度 FY 2020 1/Apr./2020-31/Mar./2021	備考 Notes
エネルギー関連 Energy Related					
エネルギー原単位 Energy consumption per unit of production	GJ/t	4.91	4.99	5.05	3工場 3 Factories
CO ₂ 排出量 CO ₂ emissions	t	82,312	76,364	65,665	3工場 3 Factories
オフィスエネルギー使用量 Energy usage in offices	GJ	4,218	4,193	3,634	オフィス Offices
ガソリン使用量 Gasoline usage	kl	19.09	16.95	14.70	全事業所 All sales offices
水資源 Water Resources					
用水使用量 Water consumption	千m ³ 1,000 m ³	2,122	1,987	1,866	3工場 3 Factories
排水量 Wastewater	千m ³ 1,000 m ³	1,589	1,531	1,493	3工場 3 Factories
間接冷却水使用量 Indirect cooling water usage	千m ³ 1,000 m ³	35,409	34,757	31,653	3工場 3 Factories
大気 Atmosphere					
フロン排出量 CFC emissions	t	59	88	30	3工場 3 Factories
大気汚染負荷量 Air pollution load	kg	17.56	20.08	17.32	3工場 3 Factories
排出物 Emissions					
廃棄物量 Amount of waste	t	9,954	8,840	8,195	3工場+R&Dセンター 3 Factories + R&D Center
埋立・焼却量 Amount of landfill and incineration	t	183	328	307	3工場+R&Dセンター 3 Factories + R&D Center
廃棄物リサイクル率 Waste recycling rate	%	98.2	96.3	96.3	3工場+R&Dセンター 3 Factories + R&D Center
オフィス廃棄物量 Amount of office waste	t	35	33	104	オフィス Offices
その他 Other					
コピー用紙購入量 Amount of copy paper purchased	千枚 1,000 Sheets	1,536	1,469	1,104	全事業所 All sales offices
グリーン購入率 Green Purchase rate	%	71.8	66.2	66.1	全事業所 All sales offices

社会 | Society

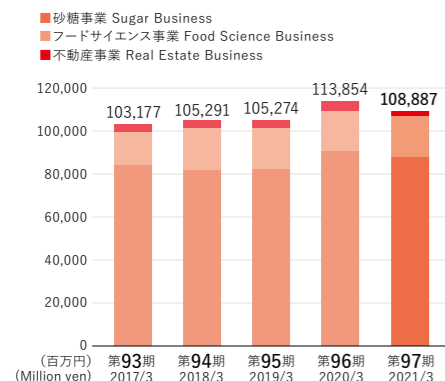
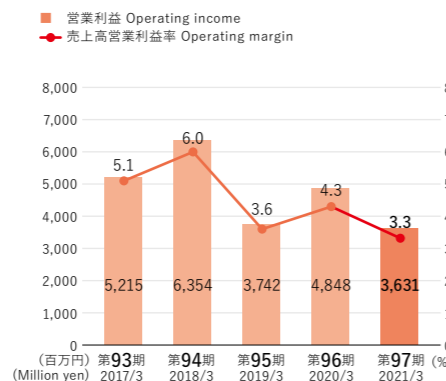
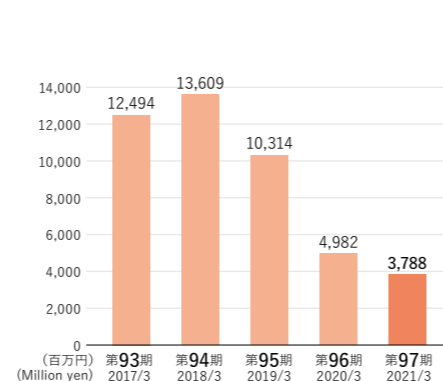
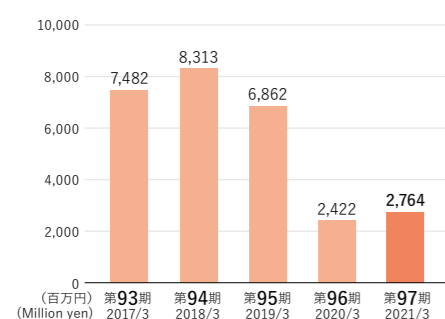
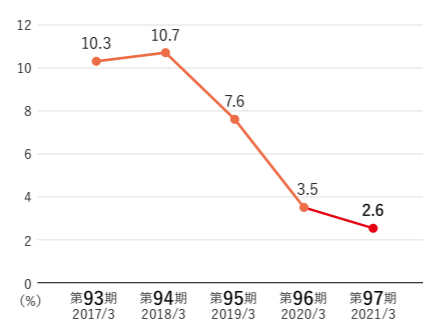
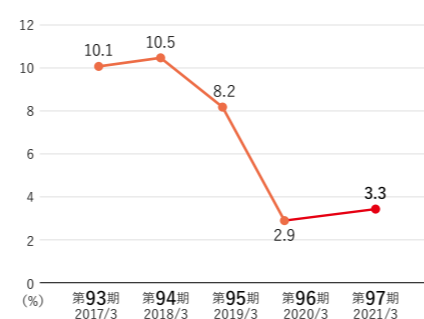
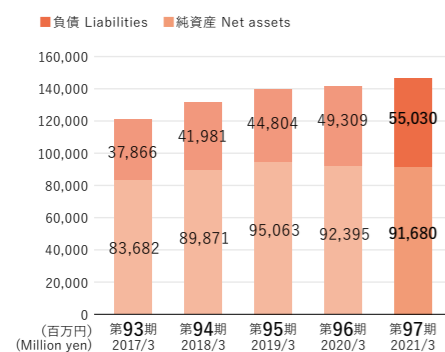
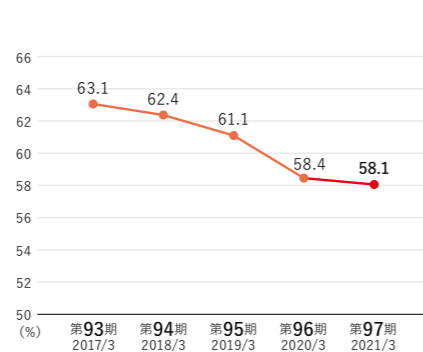
指標 Index.	単位 Unit	2018年度 FY 2018 1/Apr./2018-31/Mar./2019	2019年度 FY 2019 1/Apr./2019-31/Mar./2020	2020年度 FY 2020 1/Apr./2020-31/Mar./2021	備考 Notes
雇用 Employment					
従業員数 Number of employees	人 People	414	418	416	当社からの出向者、嘱託社員、パート社員を含む Including seconded employees from the company, temporary and part-time employees
平均年齢 Average age	歳 Years Old	41.1	43.2	43.6	
平均勤続年数 Average length of tenure	年 Year	18.0	19.3	19.8	
新卒採用者定着率 Graduate employment retention rate	%	87.5	100.0	92.3	入社社員の3年後定着率 3-year retention rate
離職率 Turnover	%	1.1	2.1	2.6	定年退職、嘱託社員、パート社員を除く Excluding retired, temporary and part-time employees

指標 Index.	単位 Unit	2018年度 FY 2018 1/Apr./2018-31/Mar./2019	2019年度 FY 2019 1/Apr./2019-31/Mar./2020	2020年度 FY 2020 1/Apr./2020-31/Mar./2021	備考 Notes
ダイバーシティ Diversity					
社員における女性の割合 Percentage of female employees	%	24.1	24.3	24.8	
新卒者における女性の割合 Percentage of female new graduates	%	30.8	46.2	50.0	
管理職社員における女性の割合 Percentage of female managerial positions	%	8.2	6.9	7.5	
定年再雇用率 Retirement age reemployment rate	%	50.0	100.0	100.0	当社グループ内勤務を含む Includes work in group companies
障がい者雇用率 Employment rate for people with disabilities	%	1.92	1.88	2.12	
職場環境 Work Environment					
年間平均総実労働時間 Average annual total working hours	時間 Hours	1,965.9	1,962.7	1955.1	1人当たり平均労働時間(時間外含む) Average working hours per person (including overtime hours)
月平均所定外労働時間 Average total monthly overtime working hours	時間 Hours	15.7	15.4	14.8	組合員のみ Union members only
有給休暇取得率 Paid holiday acquisition rate	%	66.1	68.0	59.9	社員及び嘱託社員 Employees and temporary employees
育児休業取得者数 Number of workers taking parental leave	人 People	10	8	4	
男性 Men	人 People	2	4	2	
女性 Women	人 People	8	4	2	
育児休業復職率 Reinstatement rate after parental leave	%	100.0	100.0	100.0	
育児短時間勤務者数 with shortened work hours for childcare Number of workers with shortened work hours for childcare	人 People	6	5	8	
労働安全衛生 Occupational Health and Safety					
労働災害発生件数 Number of occupational accidents	件 Cases	17	11	5	労働安全衛生マネジメントシステム認証範囲 Occupational Safety and Health Management System Certification scope

ガバナンス | Governance

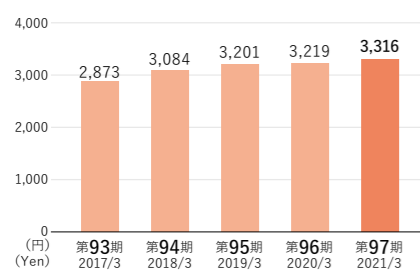
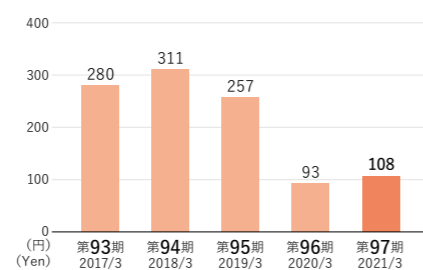
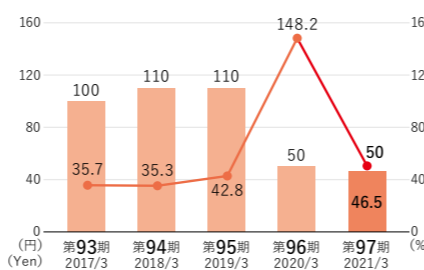
指標 Index.	単位 Unit	2018年度 FY 2018 1/Apr./2018-31/Mar./2019	2019年度 FY 2019 1/Apr./2019-31/Mar./2020	2020年度 FY 2020 1/Apr./2020-31/Mar./2021	備考 Notes
取締役会 Board of Directors					
取締役数 Number of Directors	人 People	8	8	9	
社内 In-House	人 People	4	4	5	
男性 Men	人 People	4	4	5	
女性 Women	人 People	0	0	0	
社外 Outside	人 People	4	4	4	
男性 Men	人 People	3	3	3	
女性 Women	人 People	1	1	1	
取締役会開催回数 Number of Board Meetings	回 Times	11	13	15	

財務情報

2021年3月31日現在
As of March 31, 2021売上高
Net sales営業利益・売上高営業利益率
Operating income/Operating margin経常利益
Ordinary income親会社株主に帰属する当期純利益
Profit attributable to owners of parentROA
総資産経常利益率ROE
自己資本当期純利益率負債・純資産
Liabilities/Net assets自己資本比率
Capital adequacy ratio

2021年4月1日付で、フードサイエンス事業はライフ・エナジー事業に名称変更しております。The Food Science Business has been renamed the Life Energy Business on April 1, 2021.

株価指標

1株当たり純資産
Net assets per share1株当たり当期純利益
Earnings per share1株当たり配当金・総還元性向
Dividend per share・Total return ratio

第三者意見

高岡 美佳 氏

立教大学経営学部教授



評価できること

全体を通して、「姿かたちを変えながら一生に寄り添い、幸せの時間を広げる」というDM三井製糖ホールディングスの企業理念が明確に反映された良いレポートです。また、ユニバーサルデザインを意識して文字の大きさや配置を整えた結果、非常に読みやすいレポートに仕上がっており、CSRコミュニケーションの点でも優れた報告書となっています。

今回のレポートで高く評価したいのは、次の3点です。

第1に、DM三井製糖ホールディングスとして、今後、経営戦略と一体となったサステナビリティ方針を決め、気候変動への取組みを推進していくための組織「サステナビリティ委員会」を設立したことです。トップメッセージにあるとおり、2021年4月1日に三井製糖と大日本明治製糖の経営統合が完了し、DM三井製糖ホールディングスは新たなスタートを切りました。このことは、今まで以上に規模を広げて持続可能な社会作りへの貢献することが可能となったことを意味します。今後、サステナビリティ方針の作成やCSR重要課題の特定、そして各年度における具体的施策の策定へと進むと思われませんが、それらがホールディングスの経営戦略や事業計画に組み込まれることは非常に重要です。自らが業界をリードするトップカンパニーであることを十分に認識し、社会からの期待に応えるべく素早く対応したDM三井製糖ホールディングスの姿勢を、まず高く評価したいと思います。

第2に、安全・安心・高品質を徹底するための全社的な品質保証体制を構築し、お客様のニーズに合わせた商品の開発が行われていることです。DM三井製糖ホールディングスの子会社の位置付けとなった三井製糖が展開する砂糖事業やライフ・エ

ナジー事業は「自然の恵み」のもつ多様な力を引き出して商品化しています。今回、レポート内では、砂糖事業の新製品としてプラスチックごみ削減につながるボトル入り砂糖が、ライフ・エナジー事業の新製品として脂肪吸収抑制機能をもつ食品「リピスマート®」が、それぞれ紹介されています。リピスマート®は、ゴマを原料としており、肥満予防を通じてサステナブルに世界の人々の健康に寄与する商品です。これらの商品を見てわかるように、三井製糖は常にお客様のニーズに合わせて安全・安心・高品質な商品を開発しており、同時に、商品の提供を通じて社会問題や環境問題を解決しています。積極的に取り組む企業カルチャーと本業を通じたCSR活動を高く評価したいと思います。

第3に、今回よりレポート本体に合冊された「CSRファクトデータ」を見る限り、「環境」「社会」「ガバナンス」のいずれに関しても、多くの項目の数値が改善されたことです。特に、エネルギー関連(CO₂排出量、オフィスエネルギー使用量、ガソリン使用量)、水資源(水使用量、排水量、間接冷却水使用量)、大気(フロン排出量、大気汚染負荷量)など「環境」に関わる指標で着実な改善が認められます。また、ダイバーシティ(管理職社員における女性の割合、障がい者雇用率)や職場環境(月平均所定外労働時間)なども改善しました。数字のみで表してしまうと派手さはありませんが、一つひとつの指標の改善の裏には、地道な取組みと多大なる努力が存在していることでしょう。三井製糖の誠実で真摯な取組み姿勢をあらためて高く評価したいと思います。

期待したいこと

三井製糖のCSRはすでに一定のレベルに達していると思います。次年度は、ぜひCSRの各施策についてKPIと目標値を定めたアクションプランを公開することをご検討ください。また、国際社会の動向を意識して、気候変動への対応にフォーカスしてレポートを作成してはいかがでしょうか。私が調べたところ、2050年カーボンニュートラルに向けたロードマップを公開している企業への社会の評価は、そうでない企業に比べて高くなるようです。三井製糖のCSRの更なる進展を期待しています。

第三者意見を受けて

三井製糖株式会社
グループ戦略企画部次長
CSR委員長


高橋 靖子

高岡先生には本年も本報告書へのご評価・ご意見を賜り、厚く御礼を申し上げます。本報告書ではこれまでの継続性を考慮しつつ、大日本明治製糖との経営統合により発足したDM三井製糖ホールディングスとしての使命、持続可能な社会づくりへの貢献など企業としての姿勢をご理解いただけるよう編集いたしました。

今後、DM三井製糖ホールディングスとしてサステナビリティ方針や気候変動に対する取組みを進める上で、高岡先生がアドバイスされるKPIの設置と目標値を定めたアクションプランの公開などしっかりと取り入れ、社会からの期待に応えられる企業を目指してまいります。

CSR報告書2021へのご意見を募集します

「CSR報告書2021」の内容や三井製糖株式会社の社会環境活動についてのご意見・ご感想は、三井製糖株式会社ホームページまでお寄せください。

 <https://www.mitsui-sugar.co.jp/>

画面最上段の[お問い合わせ]内にあるお問い合わせ先よりご意見をお寄せください。

発行元

 **三井製糖株式会社**

グループ戦略企画部戦略企画課

〒103-8423 東京都中央区日本橋箱崎町36番2号 TEL：03-3639-9327



この報告書の印刷で使用する電力380kWhはサトウキビのバガスによるバイオマス発電のグリーン電力を利用しています。

